



Mori wo Tsunagu
TOKYO Project



Mori wo Tsunagu
TOKYO Project

**東京の自然と都市を舞台に、事業活動を通じたNbSの活用により
社会課題解決を目指すプロジェクト**

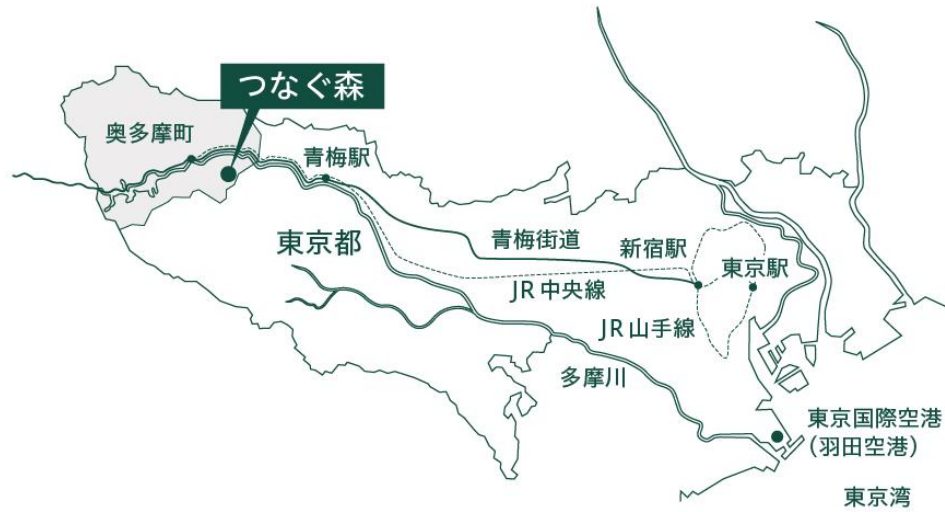
2020年4月
サステナビリティ推進部 発足

2021年8月
『奥多摩町と野村不動産ホールディングス株式会社
との持続可能な社会の実現に関する
包括連携協定』締結

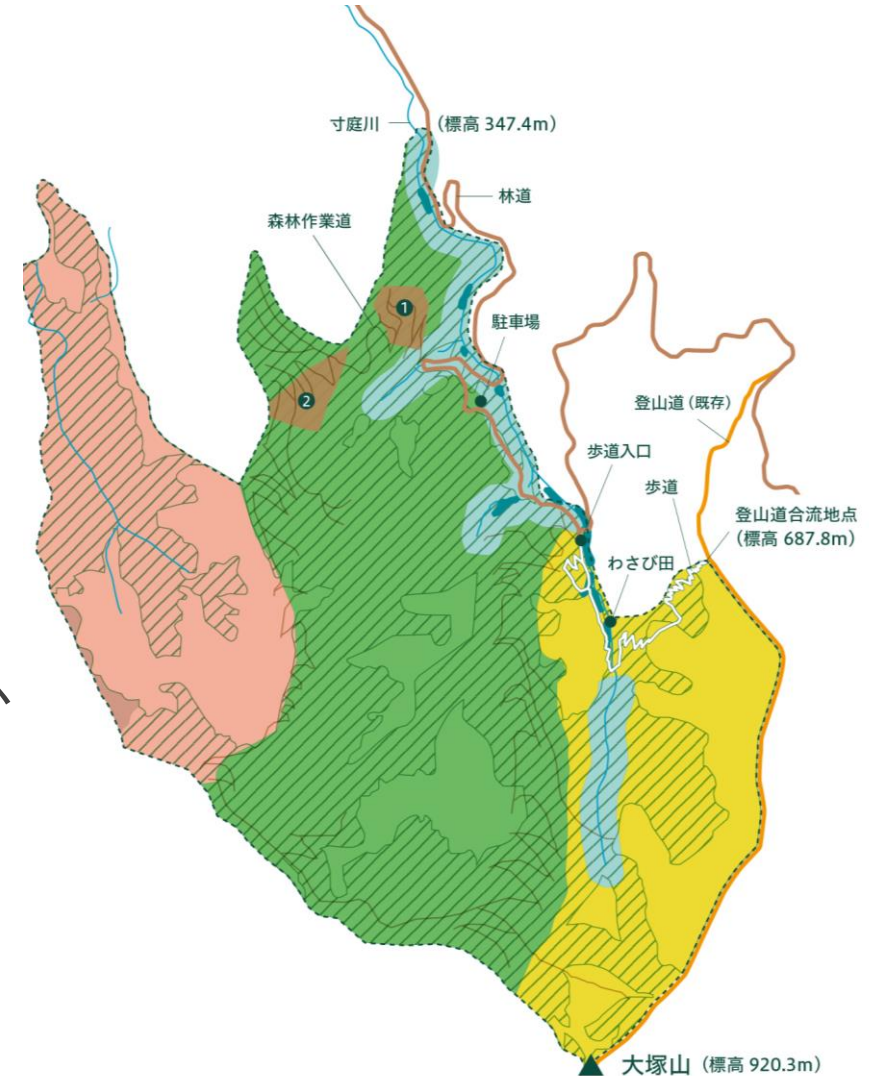
2022年10月
つなぐ森の地上権設定(30年間)

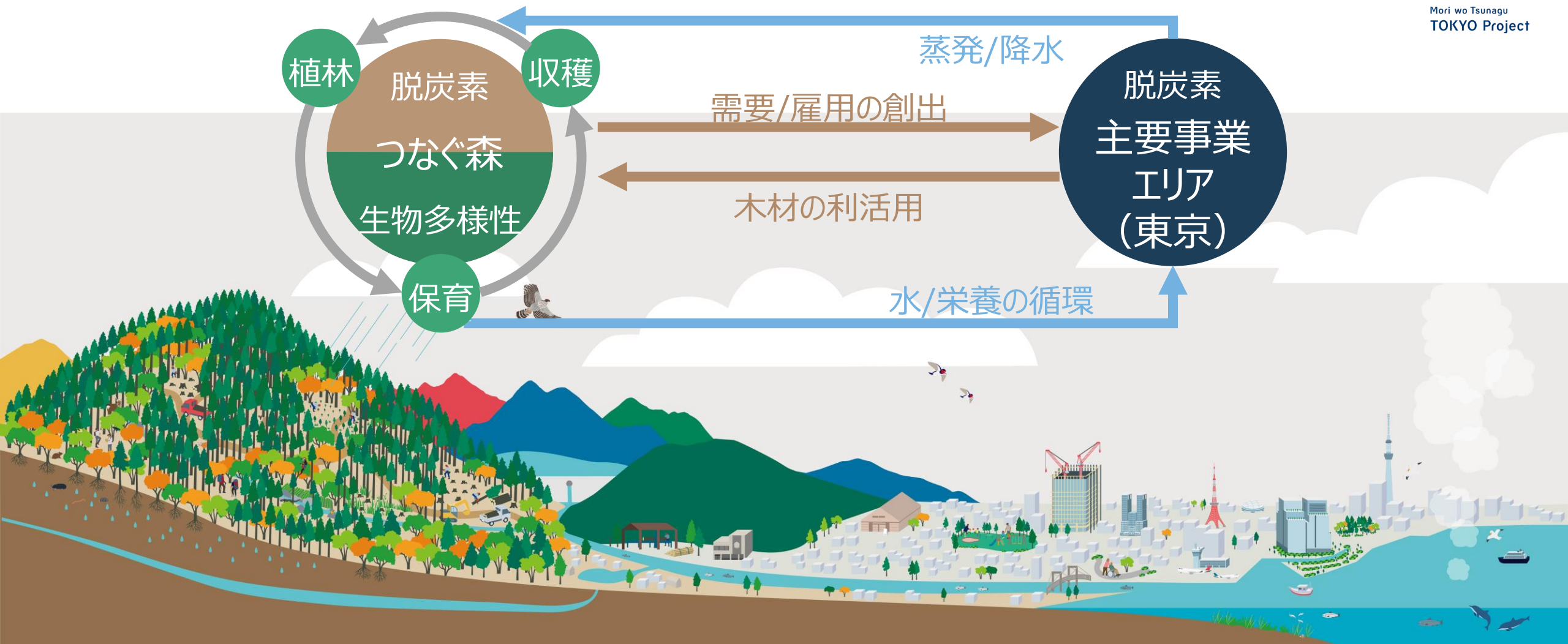


奥多摩町と包括連携協定を締結し、つなぐ森に30年間の地上権設定を受け、
2022年10月に始動



- 住所 東京都西多摩郡**奥多摩町**小丹波(計10筆)
- 面積 実測面積 **約130ha**
- 立木 **人工林(スギ・ヒノキ、平均林齢63年)約7割、**
天然林約3割
- 生物 **クマタカ(絶滅危惧種)、**
ヒガシヒダサンショウウオ(絶滅危惧種) 他





自然環境と人間活動を総合的に取り扱い、
課題解決を導き出す「ランドスケープアプローチ」を実践

調査

第三者性の確保
(有識者)

生態系管理計画

効果検証・
モニタリング



1年間の生態系調査を実施
1,003種の生物(内50種が重要種)の生息を確認
※クマタカの営巣は確認できず

調査

第三者性の確保
(有識者)

生態系管理計画

効果検証・
モニタリング



東京大学 教授
橋本 禅氏

生態系サービス、ランドスケープ計画、環境政策

地域専門研究者
御手洗 望氏

多摩地域の生物および生態系

東京大学 教授
森 章氏

生態学、生物多様性、生態系サービス

地域生物・森林・生物多様性等の専門家を招聘した有識者会議を設置

調査

第三者性の確保 (有識者)

生態系管理計画

効果検証・ モニタリング

1



健全な生態系
ピラミッドの維持

2



重要種の保全

3



林業と
生物多様性の共生

4



生態系
サービス活用

3. つなぐ森の現状（2）環境要素の区分結果

- ✓ つなぐ森の環境要素は「針葉樹人工林」、「針葉樹天然林」、「広葉樹林」、「沢沿いの渓流環境」の4つに区分される。
- ✓ 大部分を針葉樹人工林が占めており、尾根上を中心に広葉樹林が成立している。

環境要素	植生	概要
針葉樹人工林	スギ・ヒノキ植林 カラマツ植林	- 多摩地域に典型的な針葉樹人工林を主体とした環境が成立。 - 大部分が林床植生の乏しいスギ・ヒノキ林であり、他の環境と比較して生物多様性上の重要性は相対的に低いと考えられる。
針葉樹天然林	コナラ・スギ・ヒノキ群集	- ツガやモミから成る希少な針葉樹天然林が一部の尾根に成立。 - 面積が小さいものの、つなぐ森の生物多様性を特徴づける要素の一つと言える。
広葉樹林	クリ・ミズナラ群集 クリ・コナラ群集 オニグルミ群集 オオバサザ群集 タマシサイ・サザナラ群集 伐採跡地群集	- 尾根部を中心に広葉樹林（二次林）が成立。 - 広葉樹を食草とする種（シヤマセリ・カラスアゲハ等）の生息が確認されていること等、生物の生息・生育において、良好な環境が成立していると推察される。
沢沿いの 渓流環境	（沢周辺部の植生）	- 沢沿いには渓流環境が成立。 - ヒシノヒゲ・ササユリ・コノオウゴンを始めとした渓流環境に特有の希少種の生息が確認されており、生物多様性上重要な環境が存在している。



画像、課題及びアクション

ー

- る。
- 林内が暗い。林床の植
- 葉樹林が存在。
- 目標像
- 老齢木が伐出され、植林・管理等により森林サイクルが構築。
 - 林床の植生が発達。
 - 伐採跡地等に草地環境が成立。
 - 針広混交林の複層林が形成。
 - ⇒炭素吸収、土砂災害防止、水源涵養の諸機能が発揮。
 - ⇒広葉樹が増加し、多様な生物の生息場が創出。

課題 (現状と目標像のギャップ)	- 森林施策がなされておらず、森林のサイクルが止まっている。 ⇒炭素吸収、土砂災害防止、水源涵養の諸機能が十分に発揮されていない。 - 林床植生が乏しく、環境が単一であり、生物の生息場として望ましくない。
アクション (課題への対応方針)	- 老齢木の伐出、新たな樹木の植林・管理等による森林サイクルの再構築。 - 小規模モザイク状伐採等により、生物多様性に配慮した森林施策を実施。 - 下刈の実施、低密度植栽、防火線の形成等による草地環境の創出。 - 現状で存在する広葉樹林の拡大・地域性植生の機能等により、針広混交複層林化を図る。 - 森林作業道の設置及び集約集材を実施。 - 研究フィールドとしての活用（大学との連携）。

つなぐ森の目指す姿を特定した、生態系管理計画を策定

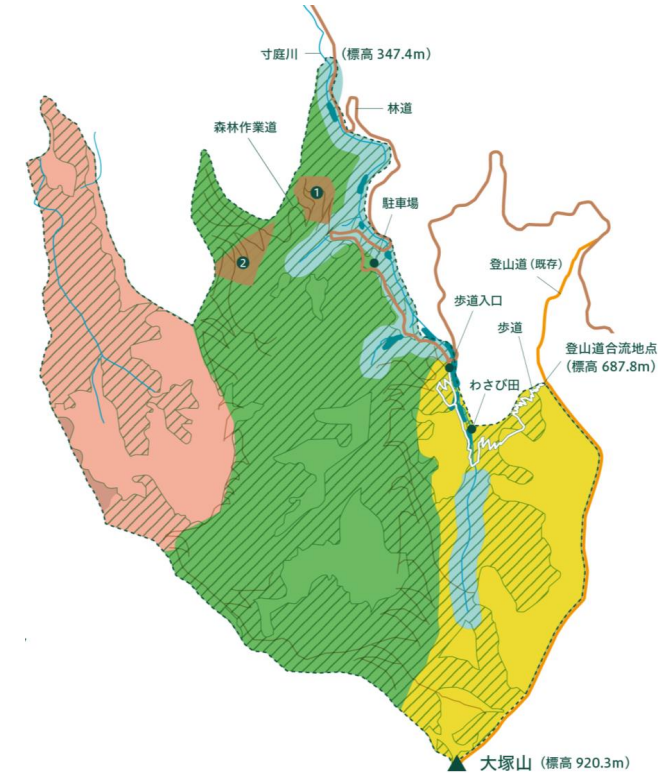
調査

第三者性の確保
(有識者)

生態系管理計画

効果検証・
モニタリング

- 生態系保全ゾーン
- 木材・生物共生ゾーン
- 溪流保全ゾーン
- レクリエーションゾーン



つなぐ森を4つにゾーニングし、生態系保全と、
供給サービスや文化的サービス等の生態系サービス活用との両立へ貢献

調査

第三者性の確保
(有識者)

生態系管理計画

効果検証・
モニタリング

KGI

モニタリングKPI

KPI

単位



健全な生態系ピラミッドの維持

✓ 猛禽類の生息の有無

—



重要種の保全

✓ 重要種の確認種数

—



林業と生物多様性の共生

✓ 草地環境の創出面積

m²

✓ 地域性種苗の植栽本数

本



生態系サービスの活用

✓ サステナビリズム等による利用者数

人

目指す姿に向けたKPIを検討し、効果検証のためのモニタリングを実施予定

3



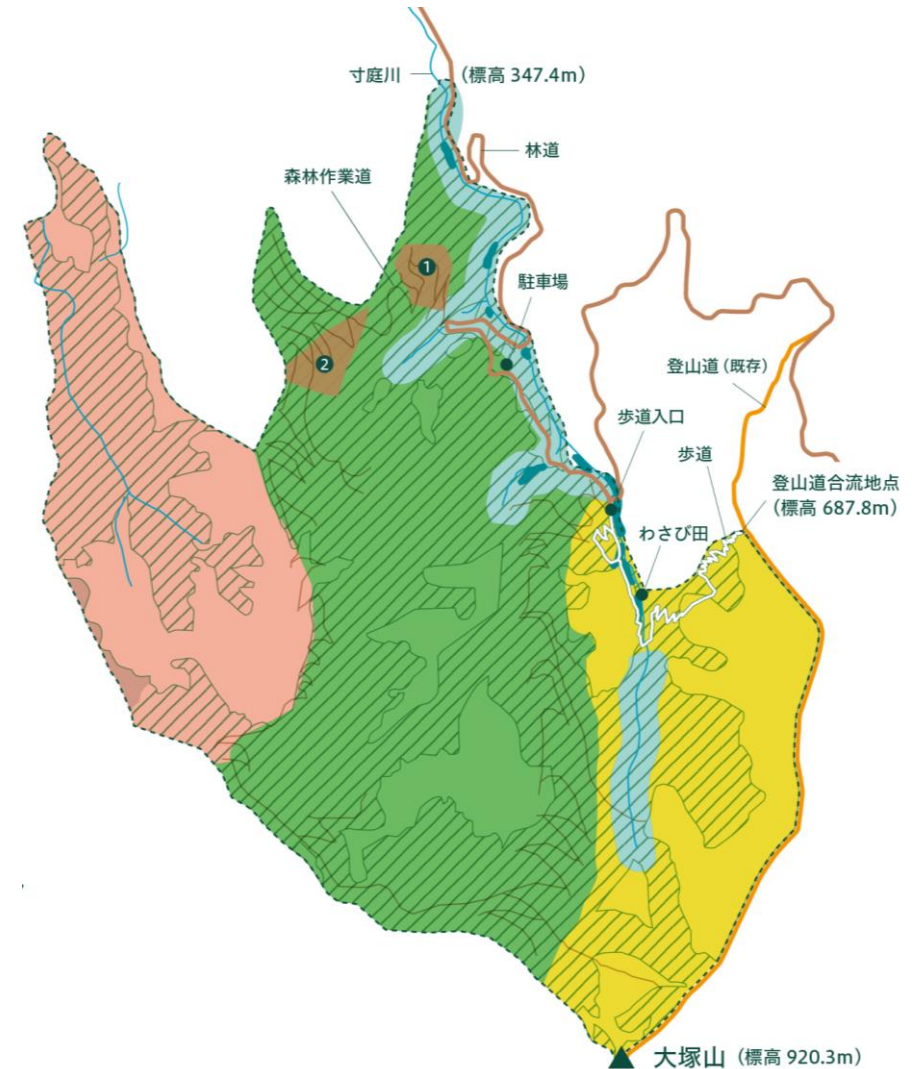
林業と
生物多様性の共生

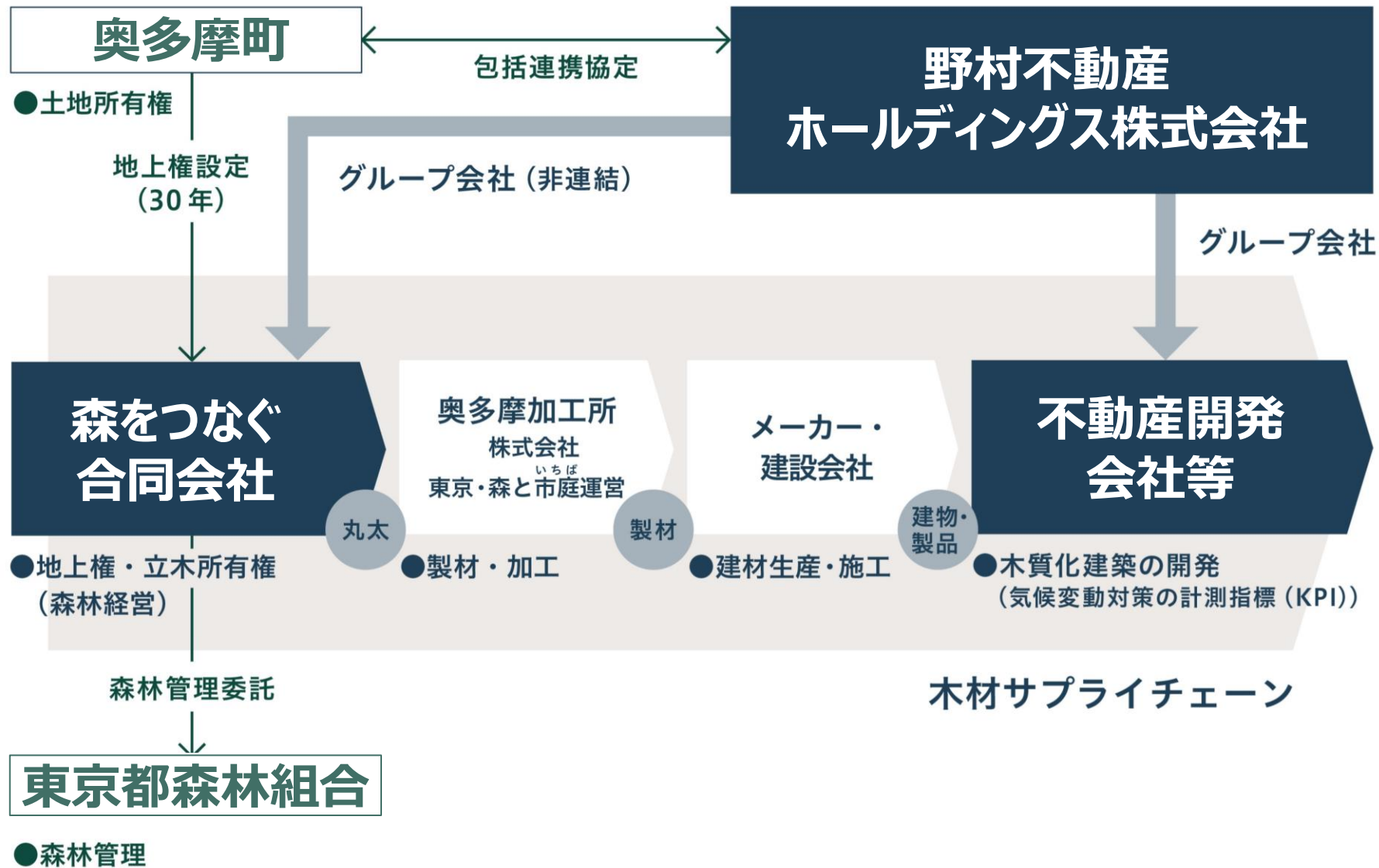
生態系保全ゾーン

木材・生物共生ゾーン

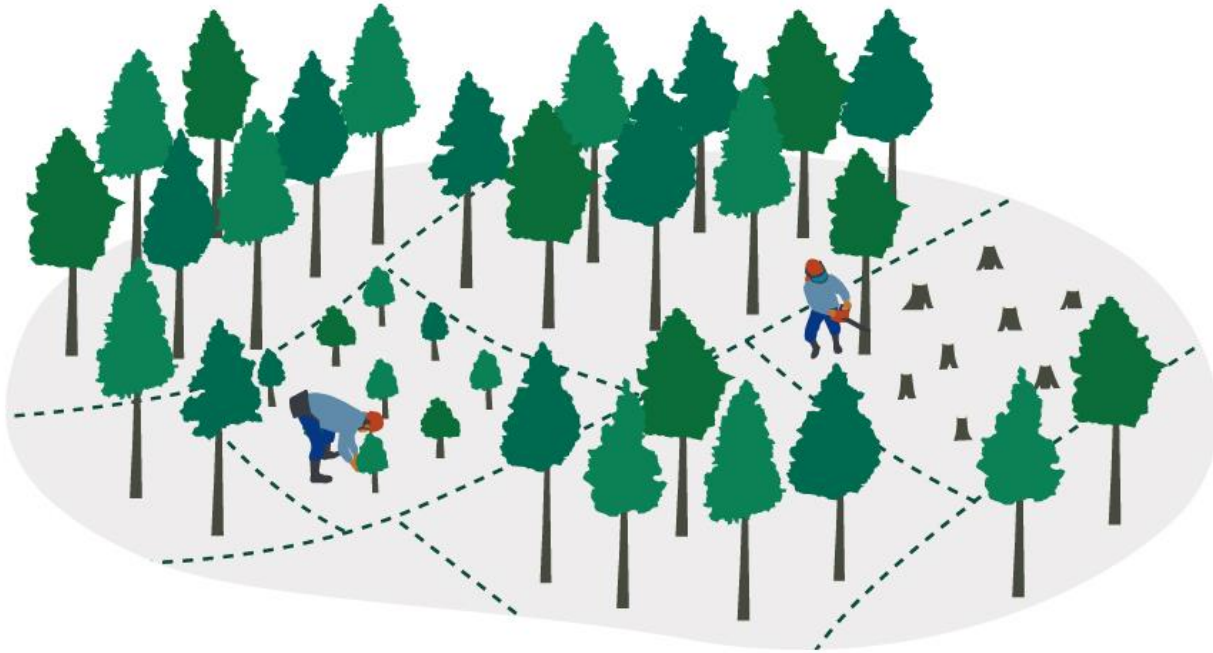
溪流保全ゾーン

レクリエーションゾーン

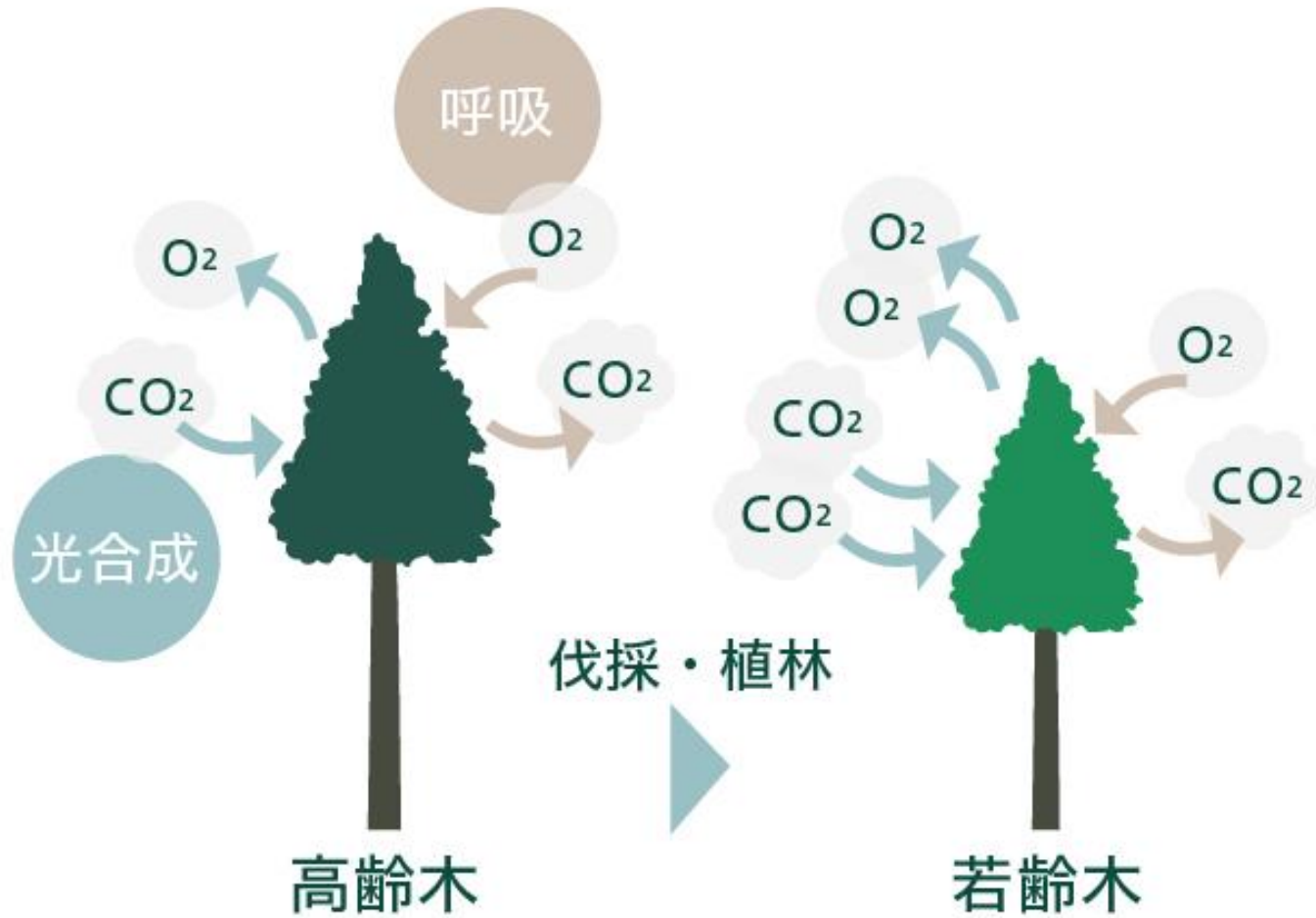




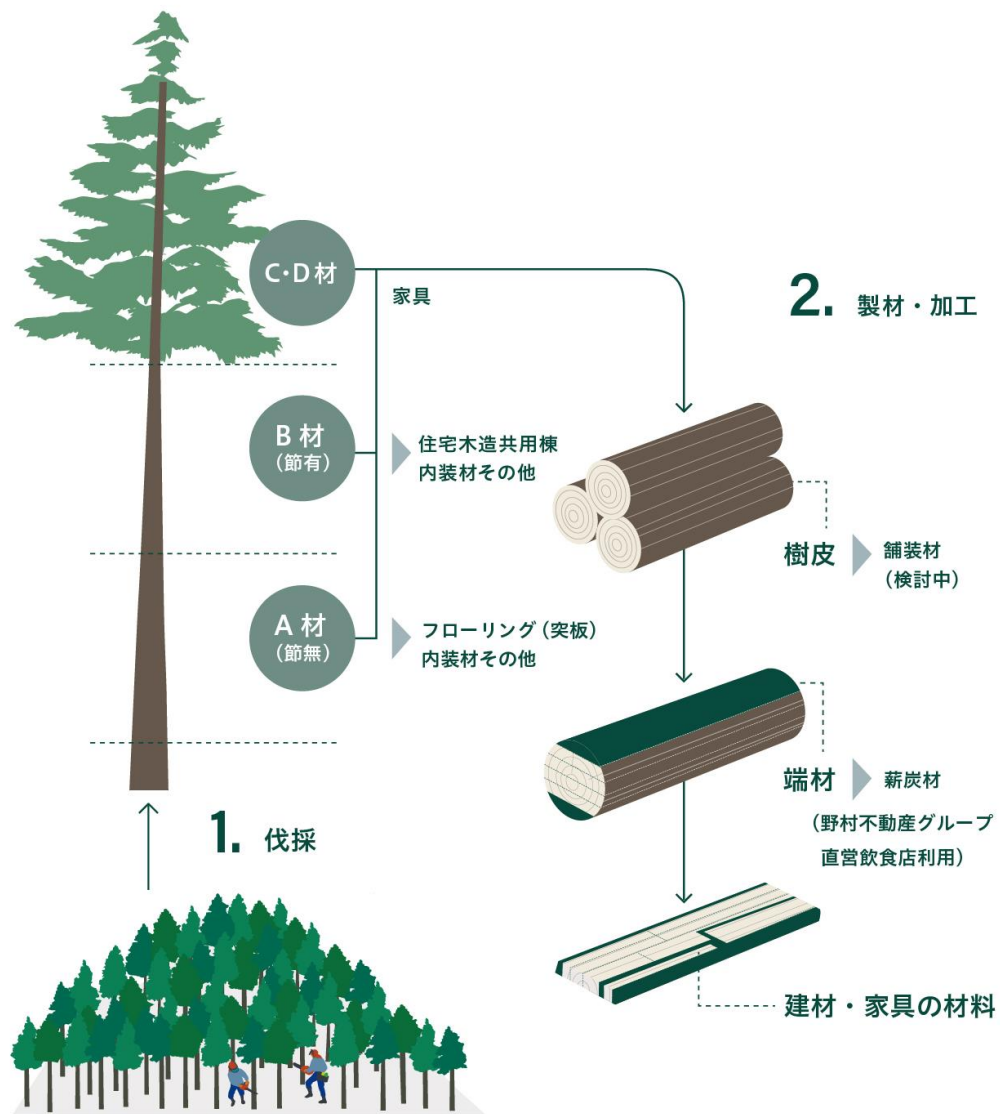
木材生産の川下の事業者が川上の立場になり、
木材の高付加価値化や林業と生物多様性の共生の実践を図る



**小規模モザイク状皆伐や重要種(クマタカ)営巣期の伐採禁止等を実施し、
林業と生物多様性の共生に貢献**



適切な循環する森づくりの実施で、CO2吸収や、森林の多面的機能の向上へ



低質材を含めた木材利用の促進で、気候変動対策にも貢献する、
自然と都市との新しい経済循環を創出

4



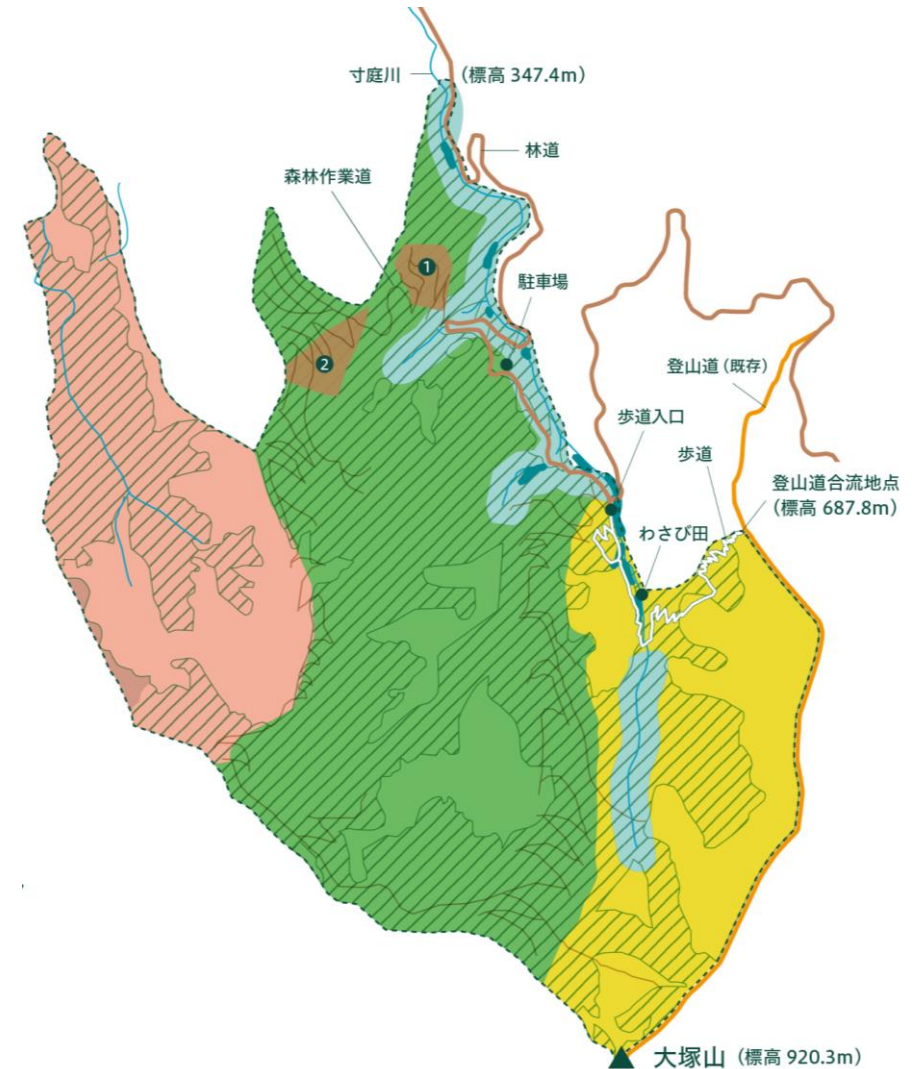
生態系
サービス活用

生態系保全ゾーン

木材・生物共生ゾーン

溪流保全ゾーン

レクリエーションゾーン





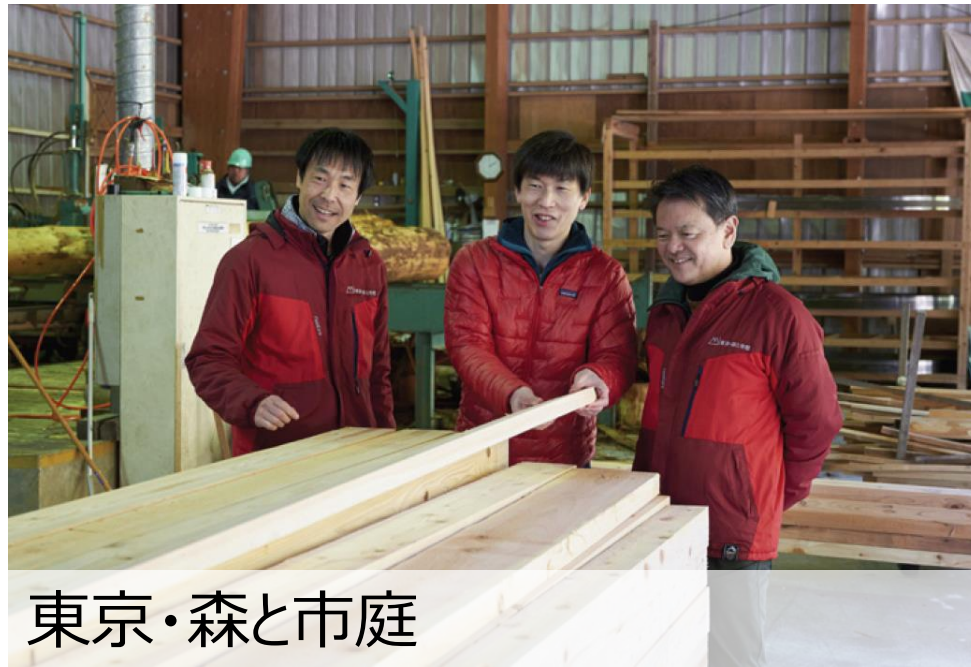
サステナブルツーリズムを提供、関係人口の増加と地域産業活性化へも貢献



サステナブルツーリズムの提供で自然体験を通じた行動変容に貢献。



奥多摩町役場



東京・森と市庭



奥多摩町議員



東京都森林組合



自然教育研究センター

今後の課題と展望



連携強化・拡大

「東京モデル」の構築と情報発信

人づくりやESDに資するつなぐ森の活用、
つなぐ森以外を舞台とした東京圏全体での取り組みで「東京モデル」

ご清聴ありがとうございました



Mori wo Tsunagu
TOKYO Project